

# 鎮守様に美女

## 逆井・富士浅間神社に春日灯籠を寄進

村の鎮守様、逆井富士浅間神社の奥まったところに、慶応年間に建てられた常夜灯がある。「村中安穩、家内安全、子孫長久」と彫られている。その常夜灯が見守る境内に、ボツティチエリの、春風を吹き付けられて誕生したヴィーナスのような春日灯籠が誕生した。



工具も置かれたまま、右の「奉」一体が息づく

## 華やぐ村の鎮守様

梅雨空が続いた六月終盤の一日、つくば市の石屋さんが来た頃には快晴、幸先よい灯籠設置が始まる。地固めをして、一トン近いという礎石がクレーンで下ろされる。礎石には反花がふんわりと付けられている。これを水平器で厳重に測る。この上にゆるぎないヴィーナスの肢体がのる。石材用の接着剤は2剤あつて混合する。これで石材はピタリ固定されるといふ。すらりとした肢の部分の竿が乗る。蓮弁のある中台、その上に火袋、笠、宝珠と重ね完了だ。六個に彫られた御影石が一体化して、見事な春日灯籠となった。火袋の火口が中心ではなく、格子窓が正面を向くのが当節風だそうだ。慶応の常夜灯さんは、いかに見そなわすか。すぐに二体目の「納」の作業である。



礎石の上に立った「竿」の上には、「受(中台)」をクレーンが頭上に運んできている。作業は手早い。灯籠を、いつも手がけているような熟練さである。これを刻み込んだベテランが筑波に在るという。まだ西日が照りつけていた頃、灯籠一対が永劫の落着きを見せていた。

末広クラブ・逆井漫歩148 平成22年7月